

感染症発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況

- 2018年 -

尾関由姫恵 小菅隆裕 猪野翔一朗* 尾上恵子 山田さゆり 斎藤章暢 岸本剛

Infectious disease surveillance reports in Saitama Pref. in 2018

Yukie Ozeki, Takahiro Kosuge, Shoichiro Ino, Keiko Onoue, Sayuri Yamada, Akinobu Saito, and Tsuyoshi Kishimoto

はじめに

感染症発生動向調査事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の第12条から16条に基づく全国サーベイランスである。一類から五類感染症、新感染症及び新型インフルエンザ等感染症の患者を診断した医師からの届出を受け、感染症の地域的な流行の実態を早期かつ的確に把握し、その情報を速やかに還元するものである。当所では2004年から「感染症発生動向調査実施要綱」に基づく基幹感染症情報センターとして、埼玉県における感染症の発生についての情報収集、解析及び提供を行っている。

2018年の感染症発生動向調査における法令及び省令等の改正点は、①急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）が五類感染症の全数把握対象疾患に追加されたこと（2018年5月1日施行）、②百日咳が五類感染症の定点把握対象疾患から全数把握対象疾患に移行したこと（2018年1月1日施行）、③風しんが医師が患者の氏名、住所等を直ちに届け出なければならない法第12条第1項第1号に規定する厚生労働省令で定める五類感染症として改めて指定（2018年1月1日施行）されたことである。

また、定点調査においては指定届出機関数に変更があった。これは、川口市が中核市移行に伴い従来の川口保健所の管轄区域が南部保健所と川口市保健所に分かれたため、インフルエンザ定点2施設、小児科定点1施設、基幹定点1施設が2018年4月1日から新たに指定された。

対象および方法

感染症法に基づく届出対象疾患を表1に示す¹⁾。埼玉県基幹情報センターとしてさいたま市、川越市、越谷市及び川口市を含む全県域から収集した届出を対象とした。届出数の集計には感染症サーベイランスシステム（National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease: NESID）の感染症発生動向調査システムに登録された2019年2月時点の確定数をダウンロードして用いた。なお、全数把握対象疾患は診断日が2018年1月1日から2018年12月31日に属する届出を、定点把握対象疾患のうち、週単位

報告対象疾患は2018年第1週（2018年1月1日～7日）から52週（2018年12月24日～30日）まで、月単位報告対象疾患は、2018年1月から12月までの報告を対象とした。年齢別の集計は、全数把握対象疾患では10歳毎の階級に分け、定点把握対象疾患では感染症発生動向調査事業の報告書式の年齢階級を適用した。

結果

1. 全数把握対象疾患の発生状況

一類から三類感染症の届出数を表2-1に、四類感染症を表2-2に、五類全数把握対象疾患を表2-3にそれぞれ示した。また、調査期間中に新感染症及び新型インフルエンザ等感染症に指定された疾患はなかった。

(1) 一類から三類感染症

一類感染症は疑似症を含め届出はなかった。

二類感染症の結核は男712例、女453例の計1,165例の届出があった。類型別では、患者が765例、無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）が390例、疑似症患者が10例（感染症死亡疑いの死体4例を含む）であった。前年と比べると患者は92例、無症状病原体保有者は46例減少した。患者では60歳以上が61.4%を占め、男は70歳代、女は80歳代が最も多かった。性比は男が女の1.8倍であった。無症状病原体保有者では、男は60歳代、女は40歳代が最も多かった。

三類感染症は、コレラ1例、細菌性赤痢31例、腸管出血性大腸菌感染症279例、腸チフス1例、パラチフス2例の計314例の届出があった。

1) コレラ

70歳代の男1例の届出があった。血清型は01で、推定感染地域は国内であった。

2) 細菌性赤痢

男22例、女9例の計31例の届出があった。症例の年齢は10歳代から80歳代に分布した。類型別では、患者18例、無症状病原体保有者13例であった。いずれも診断方法は分離・同定による病原体の検出であり、血清型は*sonnei*(D群)の検出が24例、*flexneri*(B群)の検出が6例、*boydii*(C群)の検出が1例であった。推定感染地域は国外

* 現 薬務課

表 1 感染症法における届出対象疾患

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	疑似症*	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容**
一類	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ベスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
二類	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H7N9)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
三類	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
四類	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	エキノкокクス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	キャサナル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	コクシジオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	サル痘	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ジカウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ダニ媒介脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ベネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ポツリヌス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	野兔病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	

*疑似症 明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す。但し、鳥インフルエンザはH5亜型、H7亜型ウイルスが検出された患者
 **内容 a: 氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、その他(保護者の住所氏名)

表 1 感染症法における届出対象疾患(続き)

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	疑似症*	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容**
五類	アメーバ赤痢	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	○	×	×	内科 小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(入院)	○	×	×	基幹	次の月曜	c1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1
	急性弛緩性麻痺	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	(全数)	7日以内	b2
	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	ジアルジア症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	侵襲性肺炎球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	×	×	(全数)	直ちに	a
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	水痘(入院例)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	先天性風しん症候群	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	梅毒	○	×	○	(全数)	7日以内	b1
	播種性クリプトコックス症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	破傷風	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	百日咳	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	風しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	麻疹	○	×	×	(全数)	直ちに	a
	無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	
薬剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	
流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	
流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	
淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	

*疑似症 明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す

**内容 a: 氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、その他(保護者の住所氏名)

b1: 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名

b2: 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、最近数年間の主な居住地、国籍

c1: 年齢、性別

c2: 年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法

が29例[インドネシア12例, アメリカ(ハワイ)8例, フィリピン2例, モロッコ2例, ミャンマー1例, インド1例, イタリア1例, ブラジル又はペルー1例, マレーシア又はベトナム1例], 国内が2例であった。海外での集団感染者や海外からの技能実習生からの赤痢菌の検出が確認された。

3) 腸管出血性大腸菌感染症

男127例, 女152例の計279例の届出があった。症例の年齢は0歳から90歳代に分布し, 多い年齢は10歳未満の69例, 20歳代の50例であった。類型別では, 患者183例, 無症状病原体保有者96例で, 無症状病原体保有者が全体の34.4%を占めた。0血清型は, 0157が175例と最も多く, 次いで026の59例で, 0157と026が全体に占める割合はそれぞれ62.7%と21.1%であった。0157の検出は20歳代及び10歳未満が多く, 026の検出は10歳未満が最も多かった。その他の血清型は少数で, 0121が16例, 0111が9例, 0103が4例, 0145が3例, 08, 091, 0113が各2例, 015, 084, 0128, 0181が各1例であった。その他に型別不能(OUT)が3例であった。溶血性尿毒症症候群(HUS)は, 10歳未満及び10歳代が各2例, 60歳代が1例の計5例の発症が確認された。HUS患者の0血清型は0157が3例, 026及び0103が各1例であった。届出は8月が最も多く, 6月~9月の届出数は219例で, 全体の78.5%を占めた。

4) 腸チフス

10歳未満の女1例の届出があった。類型は患者で, 診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域はパキスタンであった。

5) パラチフス

10歳未満の女1例及び50歳代の男1例の計2例の届出があった。いずれも類型は患者で, 診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域は前者がバングラデシュ, 後者がタイ, ミャンマー又はカンボディアであった。

(2) 四類感染症

四類感染症は, E型肝炎29例, A型肝炎41例, オウム病1例, チクングニア熱1例, つつが虫病4例, デング熱2例, マラリア7例, レジオネラ症100例の計185例の届出があった。

1) E型肝炎

男22例, 女7例の計29例の届出があった。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布し, 60歳代の14例が最も多かった。類型は全て患者で, 診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgA抗体の検出12例, 血清IgA抗体の検出のみが16例, 血清IgM抗体の検出のみが1例であった。推定感染経路は経口感染17例, 輸血・血液製剤2例, 不明10例で, 推定感染地域は国内25例, 国外1例, 国内又は国外1例, 不明2例であった。届出は年間を通じて散発的にあり, 患者間の関連性は認められなかった。

2) A型肝炎

男38例, 女3例の計41例の届出があった。症例の年齢は10歳代から80歳代に分布し, 20歳代から50歳代が全体の85.4%を占めた。診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が30例, 血清IgM抗体の検出のみが11例であった。推定感染経路は経口感染が16例, 性的接触が16例, 経口感染あるいは性的接触が3例, 不明が6例で, 推定感染地域は国内38例, 不明3例であった。また, ワクチン接種歴は有りが1例, 無しが24例, 不明が16例であった。全体の7割に相当する29例が5月から7月の間に届出された。

3) オウム病

40歳代の男1例の届出があった。診断方法は間接蛍光抗体法による血清抗体の検出であった。推定感染経路はトリとの接触, 推定感染地域は国内であった。

4) チクングニア熱

10歳代の男1例の届出があった。診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出で, 推定感染地域はフィリピンであった。

5) つつが虫病

50歳代の女1例, 60歳代の男2例, 70歳代の男1例の計4例の届出があった。診断方法は間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清抗体の検出及びIgM抗体の検出が3例, 分離・同定による病原体の検出, PCR法による病原体遺伝子の検出, 間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清抗体の検出及びIgM抗体の検出が1例であった。いずれも推定感染地域は国内で, そのうち県内での感染が3例であった。

6) デング熱

20歳代の男, 50歳代の男の計2例の届出があった。いずれも病型は, デング熱であった。診断方法は, 前者がNS1抗原の検出, 後者がPCR法による病原体遺伝子の検出及びNS1抗原の検出であった。推定感染地域は, 前者がスリランカ, 後者がバングラデシュであった。

表 2-1 一類、二類、三類感染症の届出数

	疾患名	埼玉県		
		2018年	2017年	2016年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	1165	1301	1385
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
三類	コレラ	1	0	0
	細菌性赤痢	31	7	11
	腸管出血性大腸菌感染症	279	246	174
	腸チフス	1	3	2
	パラチフス	2	0	0

表 2-2 四類感染症の届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	2018年	2017年	2016年		2018年	2017年	2016年
E型肝炎	29	19	15	東部ウマ脳炎	0	0	0
ウエストナイル熱	0	0	0	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
A型肝炎	41	12	6	ニパウイルス感染症	0	0	0
エキノコックス症	0	0	0	日本紅斑熱	0	0	0
黄熱	0	0	0	日本脳炎	0	0	0
オウム病	1	0	0	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
オムスク出血熱	0	0	0	Bウイルス病	0	0	0
回帰熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
キャサナル森林病	0	0	0	ブルセラ症	0	1	0
Q熱	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
狂犬病	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0	発しんチフス	0	0	0
サル痘	0	0	0	ボツリヌス症	0	0	0
ジカウイルス感染症*	0	0	0	マラリア	7	1	0
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	野兔病	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0	ライム病	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
炭疽	0	0	0	類鼻疽	0	0	0
チクングニア熱	1	0	1	レジオネラ症	100	99	89
つつが虫病	4	2	1	レプトスピラ症	0	2	0
デング熱	2	12	13	ロッキー山紅斑熱	0	0	0

* ジカウイルス感染症は2016年2月15日から 届出の対象

7) マラリア

男7例の届出があった。症例の年齢は10歳代から60歳代に分布した。病型は熱帯熱が6例、その他(*Plasmodium knowlesi*)が1例であった。いずれも診断方法は血液検体の鏡検による病原体の検出で、推定感染地域はアフリカ6例、アジアが1例であった。

8) レジオネラ症

男85例、女15例の計100例の届出があった。性比は男が女の5.7倍であった。症例の年齢は男女共に30歳代から100歳代に分布し、男では特に60歳代が多く、女では70歳以上が66.7%を占めた。病型別では、肺炎型が98例、ポンティアック熱型が2例で、肺炎型が全体に占める割合は98.0%であった。年間を通して届出はあったが、月別の届出数で最も多かったのは6月の26例で、次いで10月の16例、7月の14例であった。診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が98例、分離同定による病原体の検出が11例、PCR法またはLAMP法による病原体遺伝子の検出が11例であった(重複例有り)。推定感染地域は、国内92例、国外2例、不明6例で、国内感染例のうち県内は74例であった。

(3) 五類感染症

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢44例、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)10例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症94例、急性弛緩性麻痺6例、急性脳炎37例、クロイツフェルト・ヤコブ病6例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症30例、後天性免疫不全症候群31例、ジアルジア症2例、侵襲性インフルエンザ菌感染症23例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症137例、水痘(入院例)13例、梅毒234例、播種性クリプトコックス

症3例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症5例、百日咳719例、風しん190例、麻しん16例、薬剤耐性アシネトバクター感染症8例の計1,612例の届出があった。

1) アメーバ赤痢

男40例、女4例の計44例の届出があった。性比は男が女の10.0倍で、男が20歳代から80歳代に分布し、50歳代の11例が最も多かった。女は20歳代、30歳代、40歳代及び60歳代が各1例であった。病型別では、腸管アメーバ症40例、腸管外アメーバ症3例、腸管及び腸管外アメーバ症1例であった。診断方法は、腸管アメーバ症で鏡検による病原体の検出36例、鏡検による病原体の検出に加え他の検査法が適用されていたものが3例、ELISA法による病原体抗原の検出が1例であった。腸管外アメーバ症は、鏡検による病原体の検出2例、PCR法による病原体遺伝子の検出及び血清抗体の検出が1例、腸管及び腸管外アメーバ症は鏡検による病原体の検出であった。推定感染経路は、経口感染15例、性的接触11例、不明18例で、性的接触の内訳は異性間性的接触4例、同性間性的接触2例、異性同性不明5例であった。推定感染地域は、国内25例、国外3例、不明16例であった。

2) ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)

B型肝炎8例、C型肝炎2例の計10例の届出があった。B型肝炎は男8例で、症例の年齢は20歳代から50歳代に分布した。診断方法は、全て血清IgM抗体(HBc抗体)の検出で、ウイルスの遺伝子型はA型が3例、B型及びC型が各1例、不明が3例であった。推定感染経路は3例が性的接触で、その内訳は同性間1例、異性同性不明2例で、針等の鋭利なものの刺入による感染が1例、不明が4例であった。また、推定感染地域はいずれも国内であった。C型肝炎は

男2例で、症例の年齢は30歳代及び70歳代であった。診断方法は、前者がペア血清でのHCV抗体価の有意上昇、後者が血清でのHCV抗体陰性、かつHCV RNA又はHCVコア抗原の検出であった。推定感染経路及び地域は、前者が異性間性的接触で国内、後者はいずれも不明であった。

表 2-3 五類感染症の届出数(全数把握)

疾患名	埼玉県		
	2018年	2017年	2016年
アメーバ赤痢	44	53	44
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	10	11	7
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	94	57	51
急性弛緩性麻痺*	6	-	-
急性脳炎	37	45	38
クリプトスポリジウム症	0	0	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	6	4	5
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	23	21
後天性免疫不全症候群	31	35	40
ジアルジア症	2	0	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	23	21	9
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	2	2
侵襲性肺炎球菌感染症	137	130	108
水痘(入院例)	13	12	9
先天性風しん症候群	0	0	0
梅毒	234	234	193
播種性クリプトコックス症	3	3	8
破傷風	3	2	4
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	5	12	9
百日咳**	719	-	-
風しん	190	6	4
麻しん	16	5	8
薬剤耐性アシネトバクター感染症	8	8	7

*急性弛緩性麻痺は2018年5月1日から届出の対象

**定点把握対象疾患であった百日咳は2018年1月1日から全数把握対象疾患に移行

3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

男60例、女34例の計94例の届出があった。症例の年齢は0歳から90歳代まで幅広く分布したが、60歳以上が75例で全体の79.8%を占めた。症状は尿路感染症が33例、菌血症・敗血症が22例、肺炎が18例、胆嚢炎・胆管炎が14例、腸炎・腹膜炎が7例であった(重複例有り)。検査検体で多かったのは、尿の27検体、血液の26検体、喀痰の14検体であった。病原菌として分離された菌は、*Enterobacter aerogenes*が39株、*E. cloacae*が25株、*E. amnigenus*、*E. asburiae*、*E. cancerogenus*が各1株で、*Enterobacter*属が分離された患者は全体の70.2%を占めた。他の細菌では *Klebsiella pneumoniae*が11株、*K. oxytoca*が2株、*Serratia marcescens*が7株、*Escherichia coli*が5株、*Citrobacter freundii*が3株、*C. koseri*が1株、*Hafnia alvei*が1株であった。また、2症例からは複数の菌種が分離された。

4) 急性弛緩性麻痺

男4例、女2例の計6例の届出があった。症例の年齢は10歳未満に分布した。いずれも病原体は特定されなかった。推定感染経路は2例が飛沫・飛沫核感染、4例が不明で、推定感染地域は全症例が国内であった。

5) 急性脳炎

男22例、女15例の計37例の届出があった。症例の年齢は0歳から70歳代に分布し、10歳未満が29例で全体の78.4%を占めた。届出は9月を除く月にあり、1月、2月及び12月に届出された9例からはインフルエンザウイルス、5月の2例からはロタウイルスが検出された。この他では、5例からヘルペスウイルス(EBウイルス、サイトメガロウイルス、ヒトヘルペスウイルス6、ヒトヘルペスウイルス7)、3例からエンテロウイルス(コクサッキーウイルスB4、コクサッキーウイルスB5、エコーウイルス11)、1例からマイコプラズマが検出された。病原体が特定されなかったのは17例であった。推定感染地域は、国内が36例、国外1例であった。

6) クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

男3例、女3例の計6例の届出があった。症例の年齢は40歳代から70歳代に分布した。病型はいずれも古典型CJDで、診断の確実度は、5例がほぼ確実、1例が疑いであった。

7) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

男16例、女14例の計30例の届出があった。症例の年齢は30歳代から100歳代に分布し、70歳以上が19例で全体の63.3%を占めた。届出は1月から12月の各月にあり、6月の6例が最も多かった。診断方法は全症例が分離同定による病原体の検出で、血清群はA群が15例、G群が10例、B群が5例であった。推定される感染経路は創傷感染が16例、飛沫感染及び接触感染が各1例、その他が2例、不明が10例で、推定感染地域は全て国内であった。

8) 後天性免疫不全症候群

男30例、女1例の計31例の届出があった。男の症例の年齢は20歳代から60歳代に分布し、40歳代の12例が最も多かった。病型はAIDSが13例で、その指標疾患はニューモシスティス肺炎が7例、カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)及びカポジ肉腫が各2例、活動性結核(肺結核又は肺外結核)及び進行性多巣性白質脳症が各1例であった。また、その他(指標疾患を認めない患者)が4例、無症状病原体保有者が13例であった。推定される感染経路では性的接触が25例、不明が5例であった。性的接触の内訳は同性間性的接触が15例、異性間性的接触が5例、異性・同性間性的接触が2例、異性・同性不明性的接触が3例であった。女の症例は、30歳代の無症状病原体保有者で、推定感染経路は異性間性的接触であった。

9) ジアルジア症

20歳代及び40歳代の男2例の届出があった。いずれも、診断方法は鏡検による病原体の検出、推定感染経路は経口感染であった。推定感染地域は、前者がインド、後者が国内であった。

10) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

男16例、女7例の計23例の届出があった。症例の年齢は10歳未満から90歳代に分布し、10歳未満は4例で17.4%、60歳以上は15例で65.2%であった。診断方法はいずれも血

液からの分離同定による病原体の検出で、ヒブワクチン接種歴は、有りが10歳未満の2例、無しが5例、不明が16例であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が6例、不明が17例、推定感染地域は国内が21例、不明が2例であった。

11) 侵襲性髄膜炎菌感染症

40歳代の女1例の届出があった。診断方法は血液からの分離同定による病原体の検出及びPCR法による病原体遺伝子の検出で、血清群はC群であった。推定感染地域は国内であった。

12) 侵襲性肺炎球菌感染症

男74例、女63例の計137例の届出があった。症例の年齢は0歳から90歳代に分布し、10歳未満は22例で16.1%、60歳以上は85例で62.0%であった。診断方法では、血液又は髄液からの分離同定による病原体の検出が135例、髄液からの病原体抗原の検出が14例、血液又は髄液からのPCR法による病原体遺伝子の検出が2例であった(重複例有り)。症状は発熱が116例(84.7%)、菌血症が109例(79.6%)、肺炎が56例(40.9%)、意識障害41例(29.9%)に認められた。ワクチン接種歴は、有りが32例(10歳未満20例、10歳代1例、60歳以上が11例)、無しが50例、不明が55例であった。推定感染地域は国内が127例、不明が10例であった。

13) 水痘(入院例)

男9例、女4例の計13例の届出があった。症例の年齢は0歳から50歳代に分布した。病型別では検査診断例が6例、臨床診断例が7例で、検査診断例の診断方法は、血清IgM抗体の検出が3例、分離同定による病原体の検出が2例、水疱内容液を検体としたイムノクロマト法による抗原の検出が1例であった。ワクチン接種歴は有りが2例、無しが7例、不明が4例で、感染原因として水痘あるいは帯状疱疹患者との関連が疑われた者が6例、不明が7例であった。推定感染地域は、国内が11例、国内あるいは国外が1例、不明が1例であった。

14) 梅毒

男151例、女83例の計234例の届出があった。性比は男が女の1.8倍で、症例の年齢は、男女共に0歳から80歳代に分布し、男では40歳代が最も多く、20歳代から50歳代が89.4%を占めた。女では20歳代が最も多く、20歳代から40歳代が84.4%を占めた。病型は、男では早期顕症梅毒(I期)が77例、早期顕症梅毒(II期)が35例、先天梅毒が1例、無症状病原体保有者が38例で、女では早期顕症梅毒(I期)が16例、早期顕症梅毒(II期)が30例、晩期顕症梅毒及び先天梅毒が各1例、無症状病原体保有者が35例であった。推定感染経路は、男で性行為感染が138例、母子感染(胎内)が1例、不明が12例、女で性行為感染が72例、母子感染(胎内)が1例、不明が10例であった。性行為感染の内訳で異性間性的接触は男が71.5%、女が73.5%を占めた。また、推定感染地域は国内が208例、国外が4例、不明が22例であった。

15) 播種性クリプトコックス症

40歳代、70歳代及び80歳代の男3例の届出があった。診断方法は、全症例で血液又は髄液からのラテックス凝集法による荚膜抗原の検出が行われていたほか、分離・同定による病原体の検出が2例、病理組織学的診断が1例で行われていた。感染原因では、抗がん剤投与による免疫不全が1例、鳥糞などの接触が1例、原因不明が1例であった。推定感染地域はいずれも国内であった。

16) 破傷風

男1例、女2例の計3例の届出があった。症例の年齢は40歳代及び70歳代であった。いずれも診断方法は臨床決定、推定感染経路は創傷感染、推定感染地域は国内であった。破傷風含有ワクチンの接種歴は有りが1例、不明が2例であった。

17) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

男3例、女2例の計5例の届出があった。症例の年齢は60歳代から80歳代に分布した。診断方法は、全例が分離同定による腸球菌の検出で、MIC(Minimum inhibitory concentration)測定が行われていた。分離された腸球菌はいずれも*Enterococcus faecium*で、4例から耐性遺伝子*vanB*が確認された。推定感染地域はいずれも国内であった。

18) 百日咳

男328例、女391例の計719例の届出があった。症例の年齢は0歳から90歳代に分布し、10歳未満の364例、10歳代の179例が多かった。また、0歳は27例で3.8%であった。月別の届出数は6月に50例を上回り、さらに9月には100例を超過した。診断方法は分離・同定による病原体の検出が7例、病原体遺伝子の検出が320例、単一血清で抗体価の高値が377例、ペア血清で抗体価の陽転又は有意上昇が5例であった(重複例有り)。また、検査所見を認めないが、検査確定例と接触が有るか臨床的特徴を有した症例は17例であった。ワクチン接種歴は、有りが489例、無しが32例、不明が198例で、0歳では有り(3回目まで)8例、無し18例、不明1例あった。また、0歳の推定感染経路は、同胞からの感染が8例、父母等7例、同胞又は父母等が3例、不明が9例であった。推定感染地域は国内が619例、不明が100例であった。

19) 風しん

男144例、女46例の計190例の届出があった。症例の年齢は10歳未満から70歳代に分布し、男は40歳代の52例、30歳代の43例が多く、女は20歳代の17例、30歳代の14例が多かった。月別の届出数は、1月から7月までは0-4例の範囲で推移していたが、8月は14例に増加し、9月から12月までは順に51例、47例、46例、24例と多い状況が続いた。病型は検査診断例が183例、臨床診断例が7例であった。検査診断例の診断方法は血清IgM抗体の検出が106例、PCR法による病原体遺伝子の検出が92例、EIA法によるペア血清での抗体の検出が4例、分離・同定による病原体遺伝子の検出が1例であった(重複例有り)。ワクチン接種歴は、男は有りが5例(3.5%)、無しが47例(32.6%)、不

明が92例(63.9%)で、女は有りが6例(13.0%)、無しが11例(23.9%)、不明が29例(63.0%)であった。接種歴有りの11例の接種回数は、2回が2例、1回のみが9例であった。推定感染地域は国内が145例、国外が1例、不明が44例であった。

20) 麻しん

男10例、女6例の計16例の届出があった。症例の年齢は30歳代が8例、40歳代が3例、10歳代及び20歳代が各2例、0歳が1例であった。病型は麻しん(検査診断例)が13例、修飾麻しん(検査診断例)が3例で、診断方法は、PCR法による病原体遺伝子の検出が10例、PCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が4例、血清IgM抗体の検出及びEIA法によるペア血清での抗体の検出が1例、血清IgM抗体の検出が1例であった。PCR法により検出された遺伝子型は14例中13例がD8であった。予防接種の接種歴は1回目、2回目有りが3例、1回目のみ有りが2例、無しが4例、不明が7例であった。推定感染経路では、4例に海外渡航歴が認められ、5例に国内での麻しん患者との接触があり、残りの7例は不明であった。

21) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

男6例、女2例の計8例の届出があった。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布した。診断方法は、喀痰からの分離・同定による病原体の検出が3例、髄液、血液、膿、創部組織及び喀痰・膿からの検出が各1例であった。90日以内の海外渡航歴は、無しが7例、不明が1例であった。

(4) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行うエボラ出血熱(サル)、マールブルグ病(サル)、ペスト(プレーリードッグ)、重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ・タヌキ・ハクビシン)、細菌性赤痢(サル)、ウエストナイル熱(鳥類)、エキノコックス症(犬)、結核(サル)、鳥インフルエンザH5N1又はH7N9(鳥類)、中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)の10疾患の届出はなかった。

2. 定点把握対象疾患の発生状況

五類感染症定点把握対象疾患の週単位報告の週別報告数、定点当たり報告数を表3-1及び3-2に、年齢階級別報告数を表4に示した。また、月単位報告の月別報告数、定点当たり報告数を表5に、性年齢階級別報告数を表6に示した。

(1) 内科・小児科定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

第1週～52週の累積報告患者総数は104,379例で、定点当たり報告総数409.33は前年と同水準であった。前年から始まった2017-2018シーズンの流行は、第3週に急激に増加し、第5週(1/29～2/4)の定点当たり68.29は感染症法施行後、最大を記録した。また、2018-2019シーズンの流行入りは前シーズンより遅く11月下旬であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、20歳未満が全体の70.8%、10歳未満は全体の49.6%を占めた。

(2) 小児科定点把握対象疾患の動向

1) R S ウイルス感染症

第1週～52週の累積報告患者数は5,012例で、定点当たり報告患者総数31.13は前年と比べ僅かに減少した。報告数は7月以降、緩やかに増え始め、8月下旬から10月上旬にかけて多い状況が続く、定点当たり報告数の最大値1.86は第38週(9/17～23)に観察された。また、定点当たり報告数は年間を通して0.10を下回らなかった。年齢階級別では、2歳未満が全体の74.7%を占めた。

2) 咽頭結膜熱

第1週～52週の累積報告患者数は4,086例で、定点当たり報告患者総数25.38は前年と比べ減少した。夏季流行は5月から7月にかけて観察された。定点当たり報告数の最大値は第23週(6/4～10)の1.27であった。また、11月から12月にかけて小さな冬季流行が観察された。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く、1歳～5歳で全体の76.0%を占めた。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第1週～52週の累積報告患者数は26,292例で、定点当たり報告患者総数163.30は前年と比べ僅かに増加した。例年同様の季節変動が観察された。4月から5月及び12月の定点当たり報告数は前年を上回り、最大値は第22週(5/28～6/3)の5.12であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、5歳が最も多く3歳～8歳で全体の69.4%を占めた。

4) 感染性胃腸炎

第1週～52週の累積患者報告数は51,340例で、定点当たり報告患者総数318.88は前年と同水準であった。冬季流行は11月以降に緩やかに始まり、定点当たり報告数の最大値は第51週(12/17～23)の13.14であった。冬季以外では、5月から6月にかけて報告数がやや多い状況が続いた。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く7歳未満で全体の66.7%を占めた。

5) 水痘

第1週～52週の累積報告患者数は4,331例で、定点当たり報告患者総数26.90は前年と比べ僅かに増加した。5月から6月及び12月に定点当たり報告数が1.00を超えた週が観察された。定点当たり報告数の最大値は第21週(5/21～27)の1.58で、前年の最大値0.80を上回った。年齢階級別では全ての階級で報告があり、7歳、6歳、5歳順に多く、4歳～8歳で全体の62.2%を占めた。

6) 手足口病

第1週～52週の累積報告患者数は5,613例で、定点当たり報告患者総数34.86は大流行した前年と比べ大きく減少した。流行は6月に始まり、12月まで及んだ。定点当たり報告数の最大値は第43週(10/22～28)の1.87で、小規模流行年であった2014年及び2016年の最大値と同水準であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く1歳～3歳で全体の61.6%を占めた。

7) 伝染性紅斑

第1週～52週の累積報告患者数は4,192例で、定点当たり報告患者総数26.04は前年と比べ大きく増加した。定点当たり報告数は5月以降緩やかに増加し始め、11月下旬に急増し、前流行期(2014年～2016年)のピーク時に迫る定点当たり報告数の最大値1.98を第50週(12/10～16)に観察した。年齢階級別では全ての階級で報告があり、5歳が最も多く3歳～7歳で全体の68.2%を占めた。

8) 突発性発しん

第1週～52週の累積報告患者数は4,158例で、定点当たり報告患者総数25.83は前年と同水準であった。例年同様に年間を通して常に報告はあり、定点当たり報告数の最大値0.93は第23週(6/4～10)に観察された。年齢階級別では、1歳が最も多く、2歳未満で全体の84.2%を占めた。

表 3-1 定点把握対象疾患の推移・患者数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(感染性胃腸炎)	インフルエンザ	入院
18-1	01/01	4,317	50	52	176	567	94	9	11	35	1	9	1	20	-	-	1	-	-	21	
18-2	01/08	7,570	54	54	387	1,065	64	11	29	66	1	19	2	33	-	-	4	1	-	16	
18-3	01/15	15,840	70	33	555	1,255	49	9	33	66	5	15	-	19	-	2	4	-	-	38	
18-4	01/22	16,745	53	33	480	852	66	12	27	50	1	9	1	24	-	-	-	-	-	50	
18-5	01/29	17,550	56	39	600	921	58	7	15	51	1	10	-	25	-	-	-	-	1	33	
18-6	02/05	13,100	64	33	468	799	72	5	5	57	4	10	1	30	-	3	-	-	-	33	
18-7	02/12	7,306	65	39	393	682	66	2	8	43	-	13	1	18	-	1	1	-	-	26	
18-8	02/19	5,374	60	35	542	842	57	2	8	57	3	16	3	15	-	2	1	-	-	16	
18-9	02/26	3,725	67	25	544	968	46	4	13	48	2	15	1	17	-	1	1	2	1	20	
18-10	03/05	2,148	72	38	580	931	65	9	6	67	1	10	-	16	-	-	2	-	1	13	
18-11	03/12	1,511	74	46	610	846	52	16	10	58	2	19	-	14	-	2	-	-	-	11	
18-12	03/19	853	60	27	545	792	76	2	5	67	1	12	-	18	-	1	-	-	1	9	
18-13	03/26	488	46	43	425	787	60	18	12	84	3	9	-	26	-	1	-	-	3	8	
18-14	04/02	277	55	29	382	730	95	6	8	70	-	8	4	29	-	1	2	-	1	7	
18-15	04/09	169	53	42	413	828	84	9	8	74	2	21	1	30	-	-	-	-	2	3	
18-16	04/16	212	57	71	672	1,064	70	6	20	106	4	15	1	31	2	-	-	-	2	8	
18-17	04/23	177	54	79	728	1,292	144	19	34	108	1	14	-	28	-	1	1	-	5	1	
18-18	04/30	85	30	41	327	629	76	18	9	57	5	13	2	15	1	-	1	-	5	1	
18-19	05/07	45	33	96	695	1,201	179	21	29	117	4	26	1	53	1	1	2	-	6	1	
18-20	05/14	27	28	130	811	1,324	99	36	42	95	1	19	1	47	-	1	1	-	7	-	
18-21	05/21	29	17	174	798	1,345	257	46	34	111	6	24	5	44	-	2	1	-	1	-	
18-22	05/28	37	32	171	834	1,434	98	51	36	139	18	24	5	52	-	1	-	-	4	1	
18-23	06/04	10	31	205	821	1,269	186	55	47	151	25	31	1	53	-	2	1	-	-	-	
18-24	06/11	7	58	177	744	1,390	106	54	37	98	37	22	2	54	-	-	1	-	-	-	
18-25	06/18	12	48	190	703	1,350	99	81	79	101	73	28	4	65	-	3	2	-	-	-	
18-26	06/25	2	56	194	647	1,172	114	143	57	104	143	29	1	63	-	-	2	-	-	-	
18-27	07/02	3	62	187	587	1,090	118	184	61	118	287	29	4	56	-	1	-	-	-	-	
18-28	07/09	9	66	153	626	1,078	60	252	77	96	531	44	2	55	-	1	1	-	-	1	
18-29	07/16	14	87	154	420	805	58	256	58	97	536	22	-	78	1	6	1	-	-	-	
18-30	07/23	11	91	152	379	845	80	264	67	71	635	34	-	66	1	1	2	-	-	-	
18-31	07/30	5	122	100	320	739	54	239	62	96	647	30	-	128	-	4	5	-	-	-	
18-32	08/06	1	135	72	219	591	50	209	52	51	386	20	-	39	-	2	2	-	-	-	
18-33	08/13	-	122	55	139	406	31	170	47	65	229	25	-	26	-	1	3	-	-	-	
18-34	08/20	-	142	52	206	568	27	122	57	68	240	14	-	48	-	3	1	-	-	-	
18-35	08/27	5	257	75	240	659	24	137	71	90	257	19	2	42	-	1	-	1	1	1	
18-36	09/03	8	283	64	305	781	36	177	101	89	212	18	1	52	-	1	1	-	-	-	
18-37	09/10	28	259	62	309	730	29	153	100	104	195	15	1	41	-	1	2	-	-	-	
18-38	09/17	15	295	57	258	616	42	158	60	78	105	14	3	50	-	1	3	-	-	-	
18-39	09/24	44	211	43	277	620	47	138	70	87	66	13	2	45	-	1	4	-	-	3	
18-40	10/01	35	289	50	374	719	47	210	134	74	102	19	-	46	-	1	2	-	-	-	
18-41	10/08	18	186	40	329	611	67	219	115	71	62	14	-	33	-	2	4	-	-	-	
18-42	10/15	35	150	43	412	735	49	248	127	81	81	19	1	50	-	2	2	-	1	-	
18-43	10/22	47	147	42	445	738	79	304	139	82	49	14	1	34	-	1	4	-	-	-	
18-44	10/29	77	108	40	475	760	54	210	168	64	54	21	1	37	-	-	4	-	-	-	
18-45	11/05	158	91	42	565	946	82	193	165	96	24	27	-	39	-	1	1	-	-	1	
18-46	11/12	186	105	89	540	1,028	70	233	193	80	32	18	-	32	-	1	3	-	-	1	
18-47	11/19	217	116	64	587	1,100	92	177	220	70	24	17	-	36	-	1	4	-	-	1	
18-48	11/26	308	90	69	698	1,464	118	185	293	85	16	13	2	46	1	-	5	-	1	-	
18-49	12/03	406	58	82	805	1,788	149	187	312	79	20	15	1	36	-	2	2	-	-	1	
18-50	12/10	733	65	78	713	1,891	146	174	323	75	6	15	9	42	-	-	2	-	-	-	
18-51	12/17	1,865	72	64	739	2,102	172	102	301	57	6	14	4	30	2	-	1	-	-	11	
18-52	12/24	2,535	60	61	445	1,595	118	61	197	54	-	9	5	23	-	1	3	-	-	16	
2018年計		104,379	5,012	4,086	26,292	51,340	4,331	5,613	4,192	4,158	5,146	952	77	2,049	9	61	90	4	43	352	
2017年計		102,488	5,672	5,503	23,467	52,831	3,731	21,161	779	4,223	4,706	2,908	71	1,996	14	45	144	12	112	388	
2018年/2017年比		1.0	0.9	0.7	1.1	1.0	1.2	0.3	5.4	1.0	1.1	0.3	1.1	1.0	0.6	1.4	0.6	0.3	0.4	0.9	

(-:0)

表4 年齢階級別報告数(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点 週単位報告)

年齢階級	インフルエンザ	年齢階級	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性球菌性咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	年齢階級	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	年齢階級	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	(入院)インフルエンザ
-6カ月	268	-6カ月	885	18	9	441	34	49	2	55	21	-	-6カ月	2	7	0歳	-	16	-	-	5	16
-12カ月	973	-12カ月	1,132	250	76	3,034	106	290	52	1,215	396	8	-12カ月	1	26	1-4歳	-	5	13	-	22	43
1歳	3,001	1歳	1,726	904	743	6,664	194	1,367	192	2,232	1,426	21	1歳	3	95	5-9歳	1	7	33	-	16	38
2歳	3,782	2歳	732	578	1,315	5,404	196	1,139	291	492	1,108	43	2歳	3	86	10-14歳	-	3	24	-	-	9
3歳	4,588	3歳	311	633	2,367	5,366	267	951	477	134	775	77	3歳	6	82	15-19歳	-	1	5	1	-	-
4歳	6,372	4歳	139	585	3,453	5,233	432	666	634	30	568	144	4歳	7	99	20-24歳	-	3	4	-	-	-
5歳	6,978	5歳	49	408	3,661	4,510	490	463	746	344	163	163	5歳	5	64	25-29歳	-	2	-	-	-	1
6歳	7,152	6歳	17	279	3,512	3,543	618	260	584	171	123	123	6歳	4	47	30-34歳	-	-	2	-	-	2
7歳	6,891	7歳	3	149	2,952	2,825	700	140	419	108	114	114	7歳	2	36	35-39歳	-	2	2	-	-	2
8歳	6,207	8歳	5	93	2,324	2,314	449	95	305	74	87	87	8歳	2	39	40-44歳	-	5	1	-	-	1
9歳	5,516	9歳	3	48	1,773	1,897	368	62	211	48	56	56	9歳	1	35	45-49歳	2	1	-	-	-	1
10-14歳	17,091	10-14歳	7	85	2,856	4,872	432	92	234	86	96	96	10-14歳	3	76	50-54歳	2	2	-	-	-	5
15-19歳	5,058	15-19歳	-	2	259	941	20	5	9	7	7	7	15-19歳	-	86	55-59歳	-	1	1	-	-	4
20-29歳	4,439	20歳以上	3	54	992	4,296	25	34	36	14	13	13	20-29歳	5	198	60-64歳	-	2	-	-	-	11
30-39歳	5,729												30-39歳	7	411	65-69歳	1	4	-	-	-	19
40-49歳	7,788												40-49歳	7	268	70歳以上	3	7	5	3	-	200
50-59歳	4,942												50-59歳	9	170							
60-69歳	3,800												60-69歳	6	136							
70-79歳	2,397												70歳以上	4	88							
80歳以上	1,407																					
合計	104,379	合計	5,012	4,086	26,292	51,340	4,331	5,613	4,192	4,158	5,146	952	合計	77	2,049	合計	9	61	90	4	43	352

(-:0)

10) 流行性耳下腺炎

第1週～52週の累積報告患者数は952例で、定点当たり報告患者総数5.91は前年と比べ大きく減少した。2015年から始まった流行は前年に終息し、2018年は年間を通して大きな変動は観察されなかった。また、定点当たり報告数の最大値は、第28週(7/9～15)の0.27であった。年齢階級別では6ヵ月未満を除く階級で報告があり、5歳が最も多く4歳～8歳で全体の66.2%を占めた。

(3)眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

第1週～52週の累積報告患者数は77例で、定点当たり報告患者総数1.93は前年と比べ僅かに増加した。報告は4月から7月上旬まで連続したほか12月に急増し、第50週(12/10～16)に観察された定点当たり報告数0.22は、過去5年の最大値を上回った。年齢階級別では15-19歳を除く階級で報告があり、10歳未満は4歳が最も多く、10歳以上では50歳代が最も多かった。

2) 流行性角結膜炎

第1週～52週の累積報告患者数は2,049例で、定点当たり報告患者総数51.23は前年と同水準であった。定点当たり報告数は5月から緩やかに増加し、7月下旬に急増した。第31週(7/30～8/5)に観察された定点当たり報告数3.12は、過去5年の最大値を大きく上回った。年齢階級別では全ての階級で報告があり、10歳以上では30歳代が最も多かった。

(4)基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

第1週～52週の累積報告患者数は9例で、定点当たり報告患者総数0.84は前年と比べ減少した。報告は散発的で定点当たり報告数の最大値は第16週(4/16～22)及び第51

週(12/17～23)の0.18であった。年齢階級別では、70歳以上が3例、45-49歳、50-54歳が各2例、5-9歳、65-69歳が各1例であった。

2) 無菌性髄膜炎

第1週～52週の累積報告患者数は61例で、定点当たり報告患者総数5.70は前年と比べ増加した。報告は年間を通して断続的であった。第29週(7/16～23)に観察された定点当たり報告数の最大値0.55は、前年を上回った。年齢階級別では30-34歳を除く階級で報告があり、0歳の16例が最も多く、次いで5-9歳及び70歳以上の各7例が多かった。

3) マイコプラズマ肺炎

第1週～52週の累積報告患者数は90例で、定点当たり報告患者総数8.41は前年と比べ減少した。年間を通して、定点当たり報告数に大きな変動は観察されなかった。定点当たり報告数の最大値は、第31週(7/30～8/5)及び第48週(11/26～12/2)の0.45であった。年齢階級別では5-9歳、10-14歳、1-4歳の順で多く、この3階級で全体の77.8%を占めた。

4) クラミジア肺炎(オウム病を除く)

第1週～52週の累積報告患者数は4例で、定点当たり報告患者総数0.37は前年と比べ大きく減少した。また、定点当たり報告患者総数は10年前の2008年の6.44と比べると1/20倍で、長期的にも減少の傾向が認められる。報告は第2週、第9週及び第35週にあり、年間を通して散発的であった。年齢階級別では、70歳以上が3例、15-19歳が1例であった。

5) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)

第1週～52週の累積報告患者数は43例で、定点当たり報告患者総数4.02は前年と比べ大きく減少した。報告は3

表 5 定点把握対象疾患の推移(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

月別	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	9	0.90	2	0.20	-	-	115	1.98	32	0.55	22	0.38	38	0.66
2月	17	1.70	7	0.70	-	-	109	1.88	35	0.60	23	0.40	34	0.59
3月	12	1.20	11	1.10	-	-	149	2.53	48	0.81	15	0.25	34	0.58
4月	13	1.18	7	0.64	-	-	117	1.98	41	0.69	29	0.49	39	0.66
5月	12	1.09	2	0.18	-	-	125	2.16	44	0.76	24	0.41	49	0.84
6月	21	1.91	2	0.18	1	0.09	138	2.34	42	0.71	22	0.37	51	0.86
7月	19	1.73	6	0.55	-	-	130	2.20	41	0.69	24	0.41	44	0.75
8月	22	2.00	7	0.64	-	-	129	2.22	38	0.66	30	0.52	51	0.88
9月	10	0.91	2	0.18	-	-	137	2.32	29	0.49	15	0.25	44	0.75
10月	18	1.64	9	0.82	-	-	146	2.56	35	0.61	18	0.32	47	0.82
11月	22	2.00	4	0.36	-	-	149	2.57	32	0.55	21	0.36	41	0.71
12月	24	2.18	6	0.55	-	-	115	1.98	37	0.64	20	0.34	35	0.60
2018年 計	199	18.60	65	6.07	1	0.09	1,559	26.74	454	7.79	263	4.51	507	8.70
2017年 計	150	15.00	63	6.30	1	0.10	1,561	26.82	510	8.76	271	4.66	499	8.57
2018年/2017年比	1.3	1.2	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0	1.0	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0

(-:0)

表 6 性年齢階級別報告数(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

年齢階級	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	5	4	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
1-4歳	1	6	2	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
5-9歳	4	1	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
10-14歳	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
15-19歳	1	-	1	-	-	-	15	117	1	19	2	7	14	23
20-24歳	2	-	1	-	-	-	144	348	13	47	13	50	73	36
25-29歳	-	1	-	-	-	-	114	203	8	74	9	33	73	18
30-34歳	-	1	-	-	-	-	102	130	11	48	18	18	68	12
35-39歳	4	-	-	-	-	-	76	72	12	39	13	10	49	8
40-44歳	3	2	1	-	-	-	55	44	9	32	17	9	39	16
45-49歳	5	2	-	-	-	-	36	42	14	29	17	8	28	5
50-54歳	4	-	1	-	1	-	23	9	7	26	6	5	14	2
55-59歳	2	2	1	-	-	-	8	5	5	14	12	-	15	1
60-64歳	10	3	1	-	-	-	7	4	2	7	2	1	5	1
65-69歳	10	2	4	4	-	-	4	-	2	8	5	4	6	-
70歳~	74	47	26	14	-	-	1	-	6	19	3	-	-	-
合計	126	73	41	24	1	-	585	974	90	364	117	146	384	123
男女比	1.73	1.00	1.71	1.00	-	-	0.60	1.00	0.25	1.00	0.80	1.00	3.12	1.00

(-:0)

月から5月にかけて連続し、定点当たり報告数の最大値は、第20週(5/14~20)の0.64であった。年齢階級別では10歳未満に分布し、1-4歳が全体の51.2%、5-9歳は37.2%、0歳は11.6%を占めた。

6) インフルエンザ(入院)

第1週~52週の累積報告患者数は352例で、定点当たり報告患者総数32.90は前年と比べ減少した。報告数は、前年11月下旬から増加し4月まで多い状況が続いた。定点当たり報告数の最大値5.00は第4週(1/22~28)に観察された。また、2018-2019シーズンの報告数は12月中旬から増加した。年齢階級別では15-19歳及び20-24歳を除く階級で報告があり、10歳未満が全体の27.5%、70歳以上は56.8%を占めた。

7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

1月~12月の累積報告患者数は199例で、定点当たり報告患者総数18.60は前年と比べ僅かに増加した。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数の最大値は12月の2.18であった。年齢階級別では、70歳以上が121例(男:74例、女:47例)で最も多く、全体の60.8%を占めた。

8) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

1月~12月の累積報告患者数は65例で、定点当たり報告患者総数6.07は前年と同水準であった。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数の最大値は3月の1.10であった。年齢階級別では、70歳以上が40例(男:26例、女:14例)で最も多く、全体の61.5%を占めた。

9) 薬剤耐性緑膿菌感染症

1月~12月の累積報告患者数は1例で、定点当たり報告患者総数0.09は前年と同水準であった。報告は6月で、年齢階級は50-54歳であった。

(5)性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

1月~12月の累積報告患者数は1,559例(男585例、女974例、性比0.60)で、定点当たり報告患者総数26.74は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値1.88、最大値2.57の範囲で推移した。報告患者は男では20歳から39歳が436例(74.5%)、女では20歳から34歳が681例(69.9%)であった。最も報告数が多い年齢階級は男女共に20-24歳であった。

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

1月～12月の累積報告患者数は454例(男90例,女364例,性比0.25)で,定点当たり報告患者総数7.79は前年と比べ僅かに減少した。定点当たり報告数は最小値0.49,最大値0.81の範囲で推移した。報告患者は20歳から49歳が男は67例(74.4%),女は269例(73.9%)であった。女の最も報告数が多い年齢階級は25-29歳であった。

3) 尖圭コンジローマ

1月～12月の累積報告患者数は263例(男117例,女146例,性比0.80)で,定点当たり報告患者総数4.51は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値0.25,最大値0.52の範囲で推移した。男の報告患者は20歳から49歳が87例(74.4%)であった。女では20歳から34歳が101例(69.2%)で,最も報告数が多い年齢階級は20-24歳であった。

4) 淋菌感染症

1月～12月の累積報告患者数は507例(男384例,女123例,性比3.12)で,定点当たり報告患者総数8.70は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値0.58,最大値0.88の範囲で推移した。男の報告患者は20歳から39歳が263例(68.5%)であった。女では15歳から34歳が89例(72.4%)で,最も報告数が多い年齢階級は20-24歳であった。

(6)感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

2018年,埼玉県における摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く)若しくは発熱及び発しん又は水疱(ただし,当該疑似症が二類感染症,三類感染症,四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く)の二つの症候群の届出はなかった。

まとめ

2018年の感染症発生動向調査に基づく患者届出について,各疾患別にその動向をまとめた。全数把握対象疾患の二類感染症では,結核が1,165例の届出があった。結核患者数は765例で,緩やかな減少傾向にある。

三類感染症の細菌性赤痢は前年に比べ大きく増加した。腸管出血性大腸菌感染症は前年に引き続き増加し,届出は8月が最も多く,全体の75%を超える届出が6月～9月に集中した。

四類感染症は,E型肝炎,A型肝炎,オウム病,チクングニア熱,つつが虫病,デング熱,マラリア,レジオネラ症の計8疾患の届出があり,E型肝炎,A型肝炎は前年に比べ大きく増加した。

五類感染症の全数把握対象疾患は,アメーバ赤痢,ウイルス性肝炎(E型・A型を除く),カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症,急性弛緩性麻痺,急性脳炎,クワイツフェルト・ヤコブ病,劇症型溶血性レンサ球菌感染症,後天性免疫不全症候群,ジアルジア症,侵襲性インフルエンザ菌感染症,侵襲性髄膜炎菌感染症,侵襲性肺炎球菌感染症,水痘(入院例),梅毒,播種性クリプトコックス症,破傷風,バンコマイシン耐性腸球菌感染症,百日咳,風しん,麻しん,薬剤耐性アシネトバクター感染症の計21疾患の届出があった。法令及び省令等の改正により2018年調査から初めて報告された急性弛緩性麻痺と百日咳²⁾では,それぞれ6例と719例の届出があった。また,風しん³⁾は前年の6例から190例と大きく増加し,30-40歳代の男を主体とした流行が8月以降に認められた。麻しん⁴⁾も前年に比べ増加し,海外渡航や海外で感染した麻しん患者との接触が5割を超える症例に認められた。また,患者から検出された麻しんウイルスの遺伝子型は海外で流行しているD8であった。

定点把握対象疾患の定点当たり報告患者総数が前年より増加した疾患は,小児科定点報告疾患のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎,水痘,伝染性紅斑,ヘルパンギーナ,眼科定点報告疾患の急性出血性結膜炎,基幹定点週単位報告疾患の無菌性髄膜炎,月単位報告疾患のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症であった。特に伝染性紅斑は前年の5倍増となった。

文献

- 1) 厚生労働省:感染症法における感染症の分類,
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000203410.pdf>
- 2) 国立感染症研究所:病原微生物検出情報 Infectious Agents Surveillance Report (IASR). 百日咳 2018年11月現在, Vol. 40 No. 2 2019
- 3) 国立感染症研究所:風疹急増に関する緊急情報(2019年), <https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/2145-rubella-related/8278-rubella1808.html>
- 4) 国立感染症研究所:病原微生物検出情報 Infectious Agents Surveillance Report (IASR). 麻疹 2019年2月現在, Vol. 40 No. 4 201